

## 天皇陛下の御退位及び皇太子殿下の御即位に伴う式典委員会（第12回）議事概要

1 日 時：令和2年12月23日（水）9：47～10：00

2 場 所：総理大臣官邸大会議室

3 出席者：

・委員長

菅 義 偉 内閣総理大臣

・副委員長

加藤 勝信 内閣官房長官

・委員

坂井 学 内閣官房副長官（衆）

岡田 直樹 内閣官房副長官（参）

杉田 和博 内閣官房副長官（事務）

近藤 正春 内閣法制局長官

西村 泰彦 宮内庁長官

山崎 重孝 内閣府事務次官 兼 皇位継承式典事務局長

4 議事概要

（1）菅内閣総理大臣挨拶

○ 先般、立皇嗣の礼が滞りなく行われ、このたびの皇位継承に伴う式典がすべて無事終了した。

○ 今回は、これら一連の式典の経過を、式典委員会として正式に確認し、委員会としての締めくくりの会合としたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

## (2) 御退位及び御即位に伴う式典等について（総括）

- 資料1「御退位及び御即位に伴う式典等について」及び資料2「皇位継承式典関係（一般会計）予算決算等について」を山崎皇位継承式典事務局長から説明。
  
- 西村宮内庁長官から、関係の皆様のご御尽力により、昨年の退位の礼、春と秋の即位の礼、そして先月の立皇嗣の礼に至るまで、いずれの儀式も、皇室の伝統に沿って、厳かに滞りなく挙行することができた。国民の祝福の中、一連の儀式を終えることができ、宮内庁として、改めて厚く御礼を申し上げます。このたびの皇位の継承に際しては、宮内庁としても一丸となって、一連の対応に当たってきたところであり、式典委員会の締め括りを迎え、感慨深く思うという趣旨の発言があった。
  
- 近藤内閣法制局長官から、平成29年に、天皇の退位等に関する皇室典範特例法が成立し、これに基づき、前の天皇陛下が平成31年4月30日限りで退位され、今上陛下が直ちに即位された。関係法令に基づき、円滑な皇位の継承が行われたことを誠に喜ばしく思う。このたびの皇位の継承に当たっては、退位の礼や立皇嗣の礼など、現行憲法下で初めて行われた儀式もあったが、いずれの儀式も、皇室の伝統等を尊重するとともに、憲法の趣旨に沿ったものとして行われた。国民の理解と温かい祝福の中で、式典が滞りなく行われたことは大変良かったと思うという趣旨の発言があった。
  
- 山崎内閣府事務次官から、内閣府においては、昨年秋の即位礼正殿の儀をはじめとした式典等の実施を担い、職員あげてこの重要な任務に取り組んできた。関係機関の御協力の下、滞りなく行うことができたことに深く感謝申し上げます。また、式典委員会の事務局としては、本日ここに最終回を迎え、全ての式典等が無事に終了したことを御報告でき、安堵している。皆様のご御協力に厚く御礼申し上げますという趣

旨の発言があった。

- 杉田内閣官房副長官から、平成28年の夏に当時の天皇陛下がお気持ちを示されて以来、有識者会議の開催、国会の各党各会派における議論を踏まえた皇室典範特例法の制定をはじめとして、憲政史上初めてとなる御退位に伴う皇位の継承がつつがなく行われるよう、4年以上にわたり、皆様と共に、一連の対応に全力を尽くしてきた。皇位継承に伴う式典は、平成30年4月に閣議決定された基本方針に基づき、「憲法の趣旨に沿い、かつ、皇室の伝統等を尊重したものとすること」、「平成の御代替わりに伴い行われた式典の基本的な考え方や内容は踏襲されるべきものであること」を基本として、執り行ってきたものであるが、いずれの式典も円滑に実施することができた。今日ここに、一連の式典の終了を確認でき、感無量であるという趣旨の発言があった。
  
- 坂井内閣官房副長官から、私は、今年の秋から式典委員会委員として加わらせていただいた。その後の式典としては、先日の立皇嗣の礼があり、規模を縮小せざるを得なかったわけではあるが、厳かな雰囲気の中、皇室における立太子の礼の伝統を受け継ぐという形で行われた儀式は素晴らしいものだったと思う。全ての式典が成功裏に終わることができたことは良かったと思っている。また、政府として、このたび初めての色々な貴重な経験があったかと思うが、今後にしっかり活かしていただければと思うという趣旨の発言があった。
  
- 岡田内閣官房副長官から、私は、昨年秋から式典委員会に加わったが、爽やかな秋空の下、大勢の国民が沿道で歓呼して奉祝する中で行われた祝賀御列の儀が特に印象深かったところである。このたびの式典の挙行は、我が国に連綿と続く伝統を受け継ぎ、これを世界に発信するという大きな意義があったと考える。また、即位礼正殿の儀や内閣総理大臣夫妻主催晩餐会などにおいては、外国の方々に我が国の伝統文化に触れていただくことができ、国際親善の面でも大きな意義が

あったと考える。このたびの式典が、世界の人々の記憶に永く残っていくことを願っている。先月の立皇嗣の礼まで、全ての式典を無事終了することができ、本当に良かったと思う。御尽力いただいた皆様に深く敬意を表したいと思うという趣旨の発言があった。

- 加藤内閣官房長官から、このたびの皇位の継承に伴う式典に参加させていただくとともに、この秋からは、式典委員会副委員長として、企画・運営に携わることができたことは、誠に光栄なことだった。関係機関において今回の記憶が継承され、皇室の伝統に根差した諸儀式の姿が、将来にわたり受け継がれていくことを願っている。全ての式典を終え、今後は、衆参両院で可決された附帯決議で示された課題について、同決議の趣旨を尊重し、内閣として誠実に対応していきたいと考えているという趣旨の発言があった。

### (3) 菅内閣総理大臣発言

- このたびの皇位の継承に伴い、当式典委員会においては、上皇陛下御在位中の天皇陛下御在位三十年記念式典に始まり、退位の礼、即位の礼、先日の立皇嗣の礼と一連の式典を執り行ってきた。
- 本日は、締めくくりの会合として、これらの式典の経過を、委員会として正式に確認した。
- 憲政史上初めて、御退位と御即位が同時に行われ、平成から令和へと時代がうつり変わる中で行われた、このたびの一連の式典が、国の内外からの温かい祝福の下、全て滞りなく執り行われたことは、誠に慶賀に堪えないところである。
- ここに、式典の円滑な挙行に御協力いただいた国民の皆様にも、厚く御礼を申し上げるとともに、皇室の幾久しい御繁栄をお祈り申し上げる。

(4) 閉会